

令和6年度		保育所の自己評価表・こども園の自己評価表		伊丹市立こばと保育所	
保育理念		安全・安心な保育環境のもと「たくましく生きる力・学びに向かう力」を育む			
保育方針		一人ひとりを大切にする保育			
(教育)・保育目標		心身ともに健やかでいきいきと遊ぶ ①健康な子ども ②感性豊かな子ども ③共に育ち合う豊かな子ども ④自分の思いを表現する子ども			
重点目標		『子どもの心はずむ保育環境づくり』 ～対話から始まる子ども理解とチーム保育～			
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	・ありのままの姿を丁寧に受け止め、次の意欲や自信へと繋げられるような関わり方や言葉かけを意識する。 ・毎日 保育の振り返りの時間を15分設け、肯定的に捉えた子ども理解を対話で深め、情報共有していく。	・子ども一人一人の自己肯定感を高めるために、常勤職員の中では対話の時間をもった。個々への関わり方について具体的に情報共有してきたことで、一人一人を大切にした保育につながった。 ・すすくマップを作成し活用することで、子どもの姿、発達を考慮した環境へと繋げることができた。 ・パート職員との対話をする時間の確保と、連携を工夫し、よりよい子どもの遊びの環境や育ちの共有に繋げていきたい。		
	資質・能力を育む保育の推進	・子どもの姿を資質能力の視点から読み取ったり、遊びからの育ちを含めた姿を、幼児は週に1回、乳児は月に1回、保護者に配信する。 ・乳児、幼児会議を週に1回行い、他学年の職員との対話より、子どもを多面的に捉え、遊びの展開や環境構成に活かしていく。	・こどもだよりや個人の連絡ノートを作成するうえで、5領域や10の姿を意識して読み取り、個々の育ちを捉え保育につなげた。 ・毎日の振り返りの中で、短い時間ではあるが他学年の職員間でも子どもの姿を共有してきたことで、多面的に捉えることができた。 ・週に1回は乳児・幼児会議を持つことが出来たが、乳児、幼児職員との交流が少なかったので、情報共有の仕方、会議の持ち方に工夫が必要であった。乳幼児職員の交流や会議のメンバー構成を考慮し、子どもの姿の読み取りや育ちの対話を深めていきたい。		
	ちがいを認め合える仲間づくり	・園内(所内)で年2回、職員人権研修を行い、多様な見方や考え方を学んだり、個々の振り返りを行ったりし、人権意識の向上を図る。 ・保育の中で伝え合う機会を大切にし互いの思いや考えのちがいに気付けるとような言葉がけや関わり方について、月に1回職員会議の中で事例を持ち寄り語り合う。	・職員人権研修を2回行った。そのうち自身の人権意識について見直したり、振り返る機会となっている。 ・月に1回会議や職員グループで語り合うことで、多様な考え方を知ったり、具体的な言葉がけや関わり方を話し合うことができた。 ・日常の会話や絵本、サークルタイムで、具体的な事例を用いて子ども達と話し合う機会を設けた。子どもたち同士で違いを認め、育ちあう関係の構築につながっている。 ・乳児は、わかりやすいような絵本を通して伝えるように心がけた。		
	※健やかな体の育成	・食への興味関心が持てるように、旬の野菜を栽培したり、収穫したものを味わったりする機会を計画している。 ・自らの健康や心身に関心を持ち、生活習慣を意識できるように、視覚教材などを使用したり、話し合ったりする。 ・室内外において、日々、静と動の保育活動を取り入れ、られるよう保育環境を工夫し活用する。	・栽培したものを収穫し食べることで、食への興味関心、食べることの喜びを感じられた。 ・掲示物や歌を用いることで、丁寧に手を洗う習慣が身についてきている。 ・日々、静と動の保育活動を意識し、室内外に運動コーナーを取り入れることで、健やかな体の育成に繋げるようにした。 ・昨今の気象状況を考慮し、プールや水遊び、夏季の戸外遊び時期の変更を行い、計画を立てる。 ・稲野公園のグラウンド、近隣の公園などを有効的に活用し体を動かす機会をもち、体力作りにつなげていく。		
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・講師を招いた園内研修会を年1回行う。 ・他園の園内研修に参加する際は、幼児、乳児会議のなかで事前に学びたいポイント(環境・保育内容・子どもへの関わり方など)を絞り、研修会へ参加する。 ・研修受講後1週間以内に研修報告を行い、研修での学びを即共有・実践できるようにする。	・園内研修を行うことで、他園の保育の進め方や保育環境などを学ぶことができた。また、他園の研修に行く際に、事前に学びたい視点をもって臨んだことで、自園での環境づくりに繋がった。 次年度も実りのある研修にするために、研修参加において事前の取り組み方を工夫していきたい。 ・研修報告を一週間以内に行うことが難しい時は、月に2回の職員会議の場で報告することで、全職員が学ぶ機会になった。 ・パート職員への研修案内や、研修資料を掲示するなどで保育共有ができるように工夫していく。		
	チーム保育の推進	・職員間で共有しやすいように各担当のメンバー構成を工夫し、学年だけでなく、担当が主となり全職員で保育に取り組む。 ・週1回の乳児、幼児会議時、互いの会議内容が共有できるように職員が参加し、連携をとる。 ・勤務時間が違う職員も共に話し合いの場に参加できるように、職員の体制や会議内容の見直しをし、職員間の語り合いの時間づくりを行う。(職員会議は月2回)	・担当内で役割分担や進捗状況を確認し合い、それぞれが意識をもって話し合いや取り組むことで、チームの保育に繋げていくことが必要である。 ・乳・幼児会議は毎週1回、行った。しかし、互いの会議に参加する回数が少なかったため、今後は、計画的に会議の日程を設定し、互いの職員が参加し共有できる工夫をしていきたい。 ・会議内容を記録に残し、朝夕パートなど勤務時間が違う職員も内容を知ることができたと思われる。次年度はパート職員と話し合う機会をもち、よりチーム保育の推進を図っていく。		
開かれ信頼される園づくり	※園情報の発信	・ホームページを月に1回以上、保育、食育において配信する。 ・icuco システムを利用し、子どもの姿の写真、活動内容を配信し、育ちの共有をする。 ・保護者アンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上となる。	・icuco システムで、幼児組は毎週末こどもだよりを作成し配信した。乳児は、月に1回子どもの育ちを配信し保護者と共有した。 ・保護者アンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上となった。 ・月に1回、ホームページの配信を行った。次年度はこどもだよりの内容を元にホームページの更新を行い、保育所の保護者以外への園情報の配信の促進を行っていきたい。		
	小学校との接続	・積極的に幼小接続の研修に参加し、子どもの発達や学びの連続性の大切さについて理解を深める。 ・近隣小学校の行事参観や自園での園内研修の案内を行い、互いの教育保育内容を知る機会をもつ。	・幼小接続研修において小学校の職員と交流を持つことができ、接続期の子どもの実態を含めた情報共有の場となった。また保育環境づくりにつながるきっかけとなっている。 ・今年度は、園内研修の案内を行ったことで学校職員が来所されたり、小学校行事(運動会、オープンスクール)に職員が参観に行くことができた。 ・架け橋期のカリキュラムを基盤として、5歳児の担任だけでなく、職員全体で小学校との接続を意識して保育に取り組んでいく。		
	※地域交流子育て支援	・稲野自治会との交流による、野菜の栽培やクッキング(年2回)を行う。 ・見学や電話での対応を行う中で相談を丁寧にを行い、子育て支援につなげる。	・今年度、クッキング2回と文化展(5歳児)で地域との交流の機会をもった。 ・自治会の参加人数が増えるように、来年度は、早期に季節、内容やスケジュール調整を行い計画していく。 ・今後もカレー、さつまいくッキングなどに繋がる栽培や収穫も自治会の方と共に経験できるようにスケジュールを調整する。 ・文化展では、5歳児の展示の参加であったが、乳児の参加も視野に入れ、子どもの作品や遊びを通して保育所の情報発信をしていく。		
備考		・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園(保育所、こども園、児童発達支援センター)で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。			
次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題		・資質・能力を育むための、子どもの姿を読み取る力の向上 ・チーム保育に有効的な対話の持ち方、情報共有の方法 ・地域や小学校との接続、架け橋期のカリキュラムを踏まえた学びを深める			